



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2012.4

No.336

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



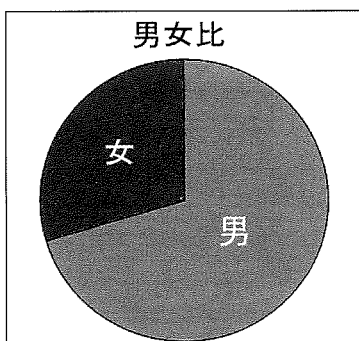
会員の概要と探鳥会規定について

日本野鳥の会埼玉事務局 海老原美夫

【会員状況の分析】

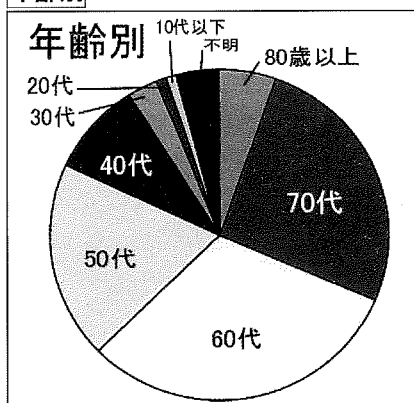
2012年1月埼玉の会員名簿から、いくつかの分析をしました。

会員の男女比



男性 70%、女性 30%。
大きな差がありました。

年齢別



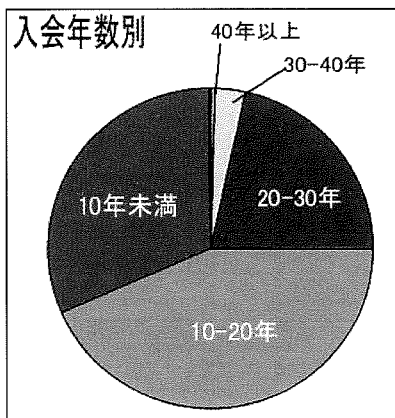
80歳以上 5.6%、70代 25.8%、60代 31.2%、50代 19.3%、40代 9.3%、30代 2.7%、20代 1.2%、10代以下 0.8%、不明 4.1%。

50～70代が合計 76.3%を占めています。

なお、最高年齢は 94 歳の男性、最も若いのは 9 歳の男性です。

入会年数別

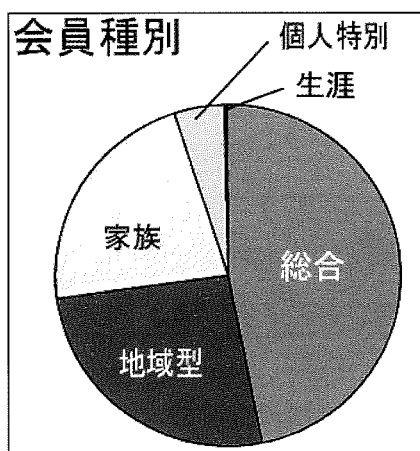
50 年以上 0.2%、40～50 年 0.4%、30～40 年 3.1%、20～30 年 21.5%、10～20 年 42.7%、10



年未満 32.0%。

最も古い会員は 1949 年に入会、会員歴 63 年の男性会員です。

会員種別



総合会員 46.6%、地域型(支部型)会員 25.9%、家族会員 22.5%、個人特別会員 4.7%、生涯会員 0.3%。

総合会員が地域型会員に移行する傾向がここしばらく続いています。

数字で確認する前からおおむね考えられていた結果になりました。これで即何ができるというものではありませんが、今後会員増などを考えていく上での、基礎的な情報です。

【探鳥会規定変更のお知らせ】

本年2月19日の役員会議で、普及部から探鳥会規定変更の案が提出されました。事前申込制のバスツアーなどにおいて、直前あるいは当日に突然キャンセルされると、バス代など、ご参加の皆さんの負担が大きくなってしまふ場合があります。そういう事態を防ぐため、キャンセル規定を強化したいという趣旨です。議論の結果、普及部案の通り変更されましたので、お知らせします。

日本野鳥の会埼玉探鳥会規定

1, 目的

探鳥会は、野鳥と自然と人のふれあいの場を通して、楽しみながら自然に対する理解を深めあう催しです。そして、日本野鳥の会の活動への賛同を得て、より人間性豊かな社会の実現を目的とします。

2, フィールドマナー

野鳥の生活をおびやかす行為、植物や昆虫などの採集、ゴミの放置など、自然環境を乱す行為は、厳に慎みましょう。

3, 開催

- (1) 探鳥会を開催する場合は、役員会においてあらかじめ場所、日時、担当リーダーなどを定め、会報『しらこぼと』に掲載します。
- (2) 探鳥会は原則として小雨決行とします。雨天等の場合、担当リーダーの判断により中止することもあります。

4, 参加者と参加費

- (1) あらかじめ「会員限定」とした探鳥会以外の探鳥会には、会員でない人も誰でも参加できます。ただし、小学生以下の参加は保護者同伴を原則とします。また、1泊以上の探鳥会および役員会が指定する探鳥会については、中学生以下は保護者同伴、高校生は親の承諾を必要とします。
- (2) 参加費は、就学前の子は無料、会員および小中学生 50 円、一般参加者は 100 円とします。
- (3) 探鳥旅行などの場合は、旅費・宿泊費・保険料なども含めた参加費を役員会であらかじめ決定し、『しらこぼと』に掲載します。事前に納めていただく場合もあります。

5, 申し込み及び取り消し

- (1) 探鳥会は原則としてあらかじめ参加申し込みを必要としません。
- (2) あらかじめ参加申し込みを必要とする場合は、その旨を会報『しらこぼと』に掲載しますので、そこに指定する申し込み方法で申し込んでください。
- (3) 参加申し込み者が定員を超過した場合は、先着順または抽選によって参加者を決定します。
- (4) 参加申し込み者は、取り消しをした場合、特に定めない限り、以下の違約金を会に納めてください。
 - ① 参加者名簿確定後出発日の10日前までのキャンセルは、参加費の20%。
 - ② 出発日の9日前から3日前までは参加費の50%。
 - ③ 2日前から出発当日までのキャンセル、及び無断不参加は、参加費の100%。
 - ④ この項の「参加費」は、削除できる費用を除いた額とします。
- (5) 参加申し込み者が参加不能となった場合、その人が紹介したかわりの人が参加できます。ただし、指定した申し込み方法と同じ方法で、あらかじめ担当者に必ず連絡してください。この場合は違約金は必要ありません。
- (6) あらかじめ参加費を集めた探鳥会・探鳥旅行が、当会の責任によらない原因によって中止されたとき、それまでに支出した保険料・通信費などの経費および返金手数料を差し引いた金額を返還します。
- (7) あらかじめ参加費を集めた探鳥会・探鳥旅行が、当会の責任による原因によって中止されたとき、参加費全額を返還します。

6, 安全対策

万一の事故の場合は参加者各自に責任を負っていただくことを前提に、団体行動に無理なく同行できるかどうか、各自の責任で参加を決め、安全には十分注意して行動してください。

附則

この規定は昭和60年9月1日から施行します。

変更：平成3年8月18日・平成7年9月17日・平成19年8月19日・平成24年2月19日。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉記録委員会

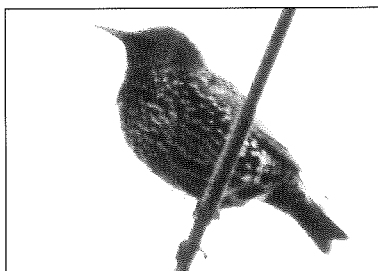
●ホシムクドリ

分類 スズメ目ムクドリ科ムクドリ属

英名 Starling (or Common Starling)

学名 *Sturnus vulgaris*

2011年12月18日鴻巣市屈巢で、同月23日同市安養寺で、ホシムクドリ1羽を撮影したと会員の村上政直さんから連絡がありました。18日の写真では体の一部しか見えませんが、23日の写真＝下＝では全身が見えます。



この写真により、県内初の確認記録とします。本種はヨーロッパ、西・中央アジア、ヒマラヤ西部などに繁殖分布、冬はアフリカ北部、インドなどに渡ります。北米、オーストラリアなどに移入されたものは個体数が増え、農作物被害などの問題を起こしています。

日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版』によれば、日本では北海道、山形、東京、鳥取、島根、佐渡、福岡、佐賀、熊本、鹿児島、奄美諸島、先島諸島などで迷鳥として記録されています。

●ツクシガモ

分類 カモ目カモ科ツクシガモ属

英名 Shelduck (or Common Shelduck)

学名 *Tadorna tadorna*

2012年1月7日付け読売新聞埼玉県版で、2011年12月29日行田市須加の利根川、利根大堰付近で本種11羽が確認され、2012年1月3日にも7羽が写真撮影されたと報道されました。添えられた写真で本種であると確認することができます。その後他の新聞などでも報道が続き、多くの人たちに観察されています。

当委員会の記録によれば、本種は1993年5月3日、本庄市坂東大橋下流1kmの利根川で、雄成鳥夏羽1羽がビデオ撮影されたのが最初で(本誌1993年7月第111号)、翌1994年1月15日にも当会研究部担当のガンカモハクチョウ類調査で1羽確認されています(本誌1994年5月第121号)。更に、前記読売新聞記事によれば、2008年に熊谷市で1羽、埼玉県生態系保護協会が確認しているとのこと。今回は県内4例目です。

ヨーロッパ中部・アジア中央部などで繁殖、北アフリカ・インド北部・朝鮮半島などで越冬。九州有明海には数十羽から数百羽飛来しますが、東日本ではまれ。環境省レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類種。日露渡り鳥条約・日中渡り鳥条約指定種。ボン条約付属書Ⅱ掲載種。

●コアホウドリ

分類 ミズナギドリ目アホウドリ科アホウドリ属

英名 Laysan Albatross

学名 *Diomedea immutabilis*

2012年2月2日付け埼玉新聞で、1月29日北本市と川島町境の荒川河川敷上空を飛ぶコアホウドリが写真撮影されたと報道され、その新聞写真からも本種であると確認できます。

当委員会の記録によれば、本種の過去の記録は1986年6月28日熊谷市内で保護されたがその後死亡(本誌1986年9月第28号)、1995年12月1日上尾市内で保護され、12月3日茨城県で放鳥(本誌1996年1月第142号)の2例でしたが、1995年12月3日付埼玉新聞によれば、同年11月28日にも川口市内で保護され、やはり茨城県で放鳥されたとのこと。

よって、今回は県内4例目となります。

環境省レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類種。国際自然保護連合レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約指定種。ボン条約付属書Ⅱ掲載種。



野鳥情報

さいたま市浦和区本太 ◇11月10日夕方、ゴイサギ1羽、当地では珍しい。11月28日、カワラヒワ60羽。12月5日、カワラヒワ50羽+（小荷田行男）。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇12月18日午後2時～3時、綾瀬川周辺でマガモ、コガモ、キセキレイ1羽、ツグミ、シメ、シロハラ。キセキレイは当地で初見（本多己秀他2名）。

羽生市羽生水郷公園 ◇12月22日、三田ヶ谷池にハジロカイツブリ1羽。ここで初認。カワセミ2羽、ヨシガモ♂10羽♀7羽、オカヨシガモ♂1羽♀5羽、ハシビロガモ♀2羽。宝蔵寺沼にアオサギ3羽、オオバン4羽、オナガガモ♂1羽、カイツブリ3羽、その他コガモ、カルガモ、マガモなど多数。どこかでクイナの声。園路でジョウビタキ♂2羽♀2羽、シメ2羽、アオジ2羽、ホオジロ♂3羽♀2羽、カシラダカ3羽、オオジュリン1羽、モズ5羽、オオカワラヒワ6羽+、ツグミが樹冠に群れていて合計21羽。電柱にノスリ1羽。アシ原上空をハイロチュウヒ♀が旋回して、距離150m程の草ボッチの上に降り、こちらを向いた。顔がよく見えた（長嶋宏之）。

川越市伊佐沼 ◇12月23日、オオハシシギ1羽、イカルチドリ2羽、コガモ60羽。土木工事で水がなかった（本多己秀・久文子）。

草加市草加公園 東経35. 8623北緯139. 8258 ◇12月24日、亜種ニシオジロビタキ1羽が雑木の間に枝移り。オオタカ若鳥が水を飲んでいて。部分白化のハシボソガラスが芝生で普通のハシボソガラスと採餌。その他ヒドリガモ、オナガガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、ユリカモメなど多数（長嶋宏之）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇12月25日、コハクチョウ14羽、ホオジロガモ30羽、オジロトウネン3羽、ハマシギ13羽、クサシギ3羽、イソシギ、イカルチドリ、アカゲラ♀1羽（鈴木敬）。◇12月28日、ホオジロガモ

♂6羽♀23羽が群れて羽繕いや採餌。頭上をアマツバメ1羽が旋回。タヒバリ2羽、イソシギ1羽、イカルチドリ3羽、タシギ1羽、ハマシギ4羽、キセキレイ1羽、ハクセキレイ2羽、セグロセキレイ4羽、カワウ6羽、アオサギ2羽、カイツブリ5羽、ツグミ8羽、カシラダカ2羽、ホオジロ♀1羽、シメ♂1羽、亜種オオカワラヒワ3羽、シジュウカラ6羽など（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇12月26日、シロハラがヒノキから飛び出して鳴きながら植え込みに入った。今季初認。3羽のエナガが柿の実を食べていた。ヒヨドリが飛んでいる蛾をキャッチした。12月26日、従来300羽～500羽土のカラスが塹をとっていた林から、カラスが一羽もいなくなった。原因はわからない。12月31日、エナガ2羽、ツグミ1羽、メジロ4羽と一緒に柿の実を啄んでいた。ジョロウグモ2匹、民家の軒下の巣で、まだ生きていた（長嶋宏之）。

鴻巣市境の見沼代用水 東経36. 0981 北緯139. 5443 ◇12月28日、アメリカヒドリ♂1羽、ヨシガモ♂1羽、その他ヒドリガモ、マガモ、コガモなど多数（長嶋宏之）。

吉見町八丁湖 ◇12月31日、トモエガモ♂1羽（竹山峯義）。

桶川市川田谷 北緯35. 9780 東経139. 5220 ◇1月1日、タゲリ25羽、芝生の上で食べ物を探していた（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇1月5日、田起こししているトラクターの後方にタゲリ3羽とケリ2羽（内田克二）。

さいたま市緑区上野田 ◇1月5日、ミヤマガラス250羽土の中にコクマルガラス淡色型3羽、暗色型5羽確認（内田克二）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月6日午後、トモエガモ♂2羽、ヨシガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ5～6羽、カモ類多数（本多己秀・久文子）。

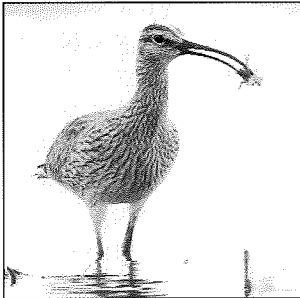
表紙の写真

ハト目ハト科アオバト属アオバト

昨年4月、近所の鳥仲間と連れて行かれたのは、自宅から徒歩5分、娘の同級生宅の植木畑でした。 藤原寛治（さいたま市）



行事案内



チュウシャクシギ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻: 特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

この案内は、執筆当時の時刻表に基づいています。3月末に鉄道・バスの時刻表変更があるかもしれません。ご注意ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月1日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、関口、飛田、長谷川、吉原(早)、相原(修)、相原(友)

見どころ：暖かな陽光に、花見客で賑わう石戸宿。去る冬鳥、来る夏鳥を探しながら、花見も楽しめる欲張り探鳥会です。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月1日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、若林、倉林、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：北へ帰り始めた冬の鳥たち、南から来始めた夏の鳥たち。春八分目の見沼田んぼはソコソコいい感じです。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：榎本(秀)、森本、大澤、倉崎、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鵜飼、岡田

見どころ：9ページにある通り、大麻生探鳥会は 300 回という大きな節目を迎えます。当会の歴史の1ページにあなたも参加しませんか。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月8日（日）

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷

見どころ：今回は、夏鳥の先陣を探して林間を歩くコースです。終点の湖では去り行く夏姿のカンムリカイツブリを見送ります。名残の桜も楽しめます。

さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：4月14日（土）

集合：午前9時、ピクニックの森駐車場。

交通：京浜東北線浦和駅西口から、大久保浄水場行きバス 8:15 発、または東武東上線志木駅東口から、南与野駅西口行きバス 8:13 発、南与野駅西口から志木駅東口行きバス 8:18 発で、「下大久保」下車、徒歩約8分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：ハンノキ天然林として全国に知られているピクニックの森は、その昔(明治)水田だった！ ピクニックの森の姿を明治から現在、そして将来について、「遷移」というキーワードで考えてみましょう。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、若林、小菅、赤堀、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野、倉林

見どころ：第3日曜日が早い年なので、代用水の桜も残ってくれるかもと期待する。西縁沿いに3カ所、市設の「憩いの場所」が出来た。ベンチに座って、ゆっくり鳥見と花見をしよう。

東松山市・物見山探鳥会

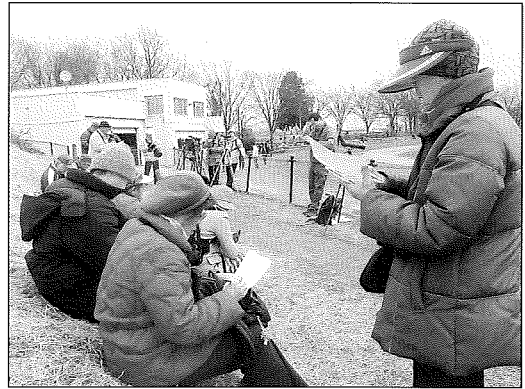
期日：4月21日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光バス鳩山ニュータウン行き 8:51、9:03 発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、藤掛、岡安、志村、増尾、高橋(優)、千島

見どころ：野鳥の少なさに気を揉んだ冬が過ぎ、どんな春が巡ってきているのでしょうか。ツツジが見頃。若葉の萌え出た里山を歩けば、足下には可憐なチゴユリ。旅の途中の



2月26日、岩槻文化公園探鳥会

鳥たちとの出会いにも期待しましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月21日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月22日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から、春日部エミナース行き 8:41 発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、吉岡(明)、進士、野村(弘)、野村(修)、佐藤

見どころ：少なかった冬鳥に‘さようなら’、南からの夏鳥に‘こんにちは’と言いたくなる季節。春日部に残る里山の新緑をめながら、野鳥との出会いを楽しもう。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月22日(日)

集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口⑤番バス乗り場から、大久保浄水場行き 8:30 発で「桜区役所」下車。

担当：倉林、海老原、新部、赤堀、増田、船木、金子、小林(み)

見どころ：気持ちのよい季節になりました。

昨年はマヒワが多く見られました。今年はどんな鳥が見られるか、楽しみに出かけください。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日（日・祝）

当会は春と秋の2回、独自のシギ・チドリ類の調査を行っています。ご協力をお願いします。

◆大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の西北角 近くの土手の上（グラウンド入り口）。

担当：石井智（研究部）

解散は昼頃。調査のため参加費不要。雨天実施。シギ・チドリが大変少ないこともあります。

栃木県・小倉山森林公園探鳥会（要予約）

期日：4月29日（日）

先月号でお知らせしました。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月11日（金）（夜行・船中泊）～13日（日）

集合：11日（金）午後8時30分、JR山手線浜松町駅（東京寄り改札口前）。

出航：11日午後10時30分、東京港竹芝桟橋。

三宅島到着は12日午前5時の予定。

帰着：東京竹芝桟橋に13日午後8時30分予定。

費用：25,000円（1泊3食、2等往復船賃、懇親会費、保険料など）。過不足の場合は当日精算。その他島内常時必携ガスマスク代2,520円、島内移動バス代1,300円。集合地までの往復交通費などは別途各自負担。

携行品：12日の朝食と昼食を、各自ご用意ください。

定員：20名（先着順、埼玉会員限定）。

申込み：往復はがきに、住所、氏名、生年月日、年齢、性別、電話番号（携帯も可）、日本野鳥の会会員番号、喫煙の有無を明記（乗船名簿記入、保険料、部屋割りのため

必要）して、藤掛保司（〒

）まで。4月1日消印以降から有効受付とします。

担当：藤掛、青木、石光、浅見

見どころ：昨年の探鳥会ではアカコッコ、イイジママシクイ、カラスバトをはじめとして、53種を観察。島内各地や帰路の洋上での観察で、バードアイランド三宅島ならではの多彩な鳥を楽しみましょう。

ご注意：①火山性ガスの影響があるかもしれません。呼吸器官等健康に不安のある方はご遠慮ください。

②天候などで帰りの船が欠航し、予定通り帰れない場合もあります。

③宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意は出来ません。



2009年5月、三宅島探鳥会
ご神木「迷子椎（まいごじい）」の前で

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月20日（日）

集合：午前6時45分、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場。

交通：往復とも貸し切りバス利用。

帰着：集合場所に、当日午後8時ころ予定。

費用：6,000円の予定（バス代、高速料、保険料など）。過不足の場合は当日精算。

定員：20名（先着順、埼玉会員限定）、最少催行人数15名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢（保険加入で必要）、電話番号、日本野鳥の会

員番号を明記して、入山博（〒
）まで。4月1日消
印以降から有効受付とします。

担当：入山、藤澤、星、石川、持丸、佐野
見どころ：キビタキが、ノビタキが、アオジ
が、新緑がまぶしい奥日光の大自然が、感
動を与えてくれます。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月26日（土）～27日（日）

集合：26日午前9時00分、長野駅コンコー
ス、新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52
→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野
8:44着）、または「あさま505号」（東京
7:24→大宮7:48→長野8:49着）

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス
代、保険料など）。過不足の場合は当日精
算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、埼玉会員優先）。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性
別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱
沼一充（〒

）まで。4月1日消印以降から有効
受付とします。

担当：菱沼（一）、藤掛、中里

見どころ：今シーズンは雪が多く、花の時期
が遅れそうです。花も鳥もという探鳥会に
なったら楽しいと思います。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用
意は出来ません。



戸隠の定宿・奥田旅館さん

熊谷市・大麻生定例探鳥会 300回達成間近です！

榎本秀和（鴻巣市）

今は昔の物語。1984年5月、日本野鳥の会
埼玉県支部（現・日本野鳥の会埼玉）が誕生
しました。そしてその月の20日、早くも熊谷
市大麻生の地で探鳥会が開催されました。当
時の探鳥会は、現在から考えると信じられな
いぐらい参加者も少なく、何しろ参加者全員
で自己紹介できる時もあるほどでした。

そのころの大麻生は、現在ゴルフ場になっ
ているあたりには広葉樹の林が広がり、絶好
の探鳥地でした。「この地を野鳥のサンクチュ
アリーに！」という熱い夢もあって、初代埼玉
県支部長故・今井昌彦氏のご尽力と、秩父鉄
道（株）様のご理解により、大麻生駅ホーム上
に「探鳥地大麻生」の案内看板（本誌1985
年9月第16号）が立てられたのもこのころの
お話です（老朽化のため、現在は撤去されて
います）。

しかし、1986年10月に県営ゴルフ場が開
設されてから、大麻生の地は一変してしま
いました。古い『しらこぼと』をひもといてみ
ると、その時々リーダーが大麻生の紹介記
事を書いています。これらの中で注目したい
のは、1991年9月第88号に掲載された「ゴ
ルフ場を考える」という海老原美夫氏の一文
です。大麻生にゴルフ場ができる以前と以後
との探鳥会記録の比較を通じて、大麻生の自
然環境にゴルフ場がもたらした影響を考察し
たものです。

さて、大麻生定例探鳥会は、1994年5月の
100回達成、2003年3月の200回達成を経て、
このまま順調に行けば（雨天中止でもなけれ
ば）、来る4月8日に300回達成という大きな
節目を迎えようとしています。

三室地区定例探鳥会（さいたま市）ととも
に、当会の礎を築き、歴史を刻んできた大麻
生定例探鳥会の歩みに思いを巡らしながら、
4月の大麻生と一緒に探鳥してみませんか。
記念グッズの販売も企画しています。



行事報告

12月17日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：56名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ キンクロ ハジロ オオタカ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種)

(番外：ガビチョウ) この冬の野鳥の少なさはどうしたことだろう。公園内のどこを歩いてもヒヨドリとメジロを除き、いるはずの鳥の声すら無い。何回か歩き、探鳥会前日にやっとツグミ、ベニマシコの姿を確認できた。カモは山田大沼で10月には300羽ほど確認できたが、12月に入り激減し、数えるほどしか残っていなかった。(中村豊己)

12月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：75名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ドバト) 年の暮れは「三室の探鳥会」といつも呼びかけているので、参加者75名と多かった。鳥の出現はやや少なかったが、仲間の交流が図られ、心の繋がった探鳥会になった。(楠見邦博)

12月25日(日) 幸手市 宇和田公園

参加：47名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン オオバン イカルチドリ タゲリ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロ

セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ドバト) 予定したコースが工事のため、江戸川へのコースを取った。公園の林の中ではヒヨドリの鳴き声だけが響き渡り、冬鳥の個体数が少なく感じられる。どうしたことだろう。水路の土手に出ると早速ノスリが出迎えてくれた。可愛らしい顔をしたタカだ。中洲ではイカルチドリが数羽遊んでいた。田んぼでは人家の垣根にツグミが止まっていた。その数はまだまだ少ない。幸運な数名はタゲリを見ることができた。下見では見られたシラコバトが出なかったのが残念だったが、天気にも恵まれて今年最後の楽しい探鳥会だった。最後は元支部長のM氏のあいさつで締めくくってくれた。(中里裕一)

1月4日(水) さいたま市 さぎ山記念公園

参加：48名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ オオタカ ハイタカ キジ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト) 年に1度で24年目の探鳥会。今年も懐かしい顔、新しい顔が並んだ。過去の記録で最多42種、最少32種。この冬は鳥が少ないようで、もしかしたら最少記録を更新してしまうかも、と思いながら出発。いつものコースを一回りしての鳥合せでは37種。ほぼ平均の種数。今年も参加者皆さんの観察力に助けられた。探鳥会後の恒例野外懇親会も暖かく進み、「故郷」を合唱して無事終了。(海老原美夫)

1月6日(金) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：39名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ イカルチドリ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワ

ラヒワ シメ ハシボソガラス ハシブトガラス
(29種) (番外：ガビチョウ) 新春ということで、
松井昭吾元支部長と中島康夫前支部長にご挨拶頂
き、スタート。下見では、ルリビタキ、ビンズイ
を観察したので、出現ポイントへ急いだが留守。
エナガ、ヤマガラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、
シメ等、定番の野鳥が観察出来、ホッとした。鳥
合わせ場所は、強風を予想して中央口の「多目的
ホール」を予約。皆様方の元気な顔を近くで見な
がら和やかに行った。(藤掛保司)

1月8日(日)	熊谷市 大麻生
参加：37名	天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
モ カルガモ ホシハジロ トビ オオタカ ノ
スリ ハヤブサ キジ クサシギ キジバト ヒ
メアマツバメ カワセミ コゲラ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ル
リビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エ
ナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラ
ダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種)
(番外：ドバト) ゴルフ場の上空でハヤブサがド
バトを追跡して捕らえ、高圧線の鉄塔上に運んで
食事するまでの一部始終を目撃することができた。
野鳥の森に入る前に荒川の河原に向かうと、ノス
リが木に止まっていて、ジックリ見られた。さら
に河原に下りると、期待していなかったクサシギ、
タヒバリ、カワセミまで登場した。ここで予定よ
り時間を費やし、野鳥の森の池では時間が十分に
取れず、ルリビタキを一部の人にしか見てもらえ
なかったのが、残念だった。(森本國夫)

1月8日(日)	戸田市 彩湖
参加：44名	天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カ
ルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ キン
クロハジロ ホオジロガモ オオタカ ノスリ
オオバン タグリ ユリカモメ セグロカモメ
キジバト カワセミ ハクセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグ
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：

ドバト) 出発して程なくダイサギが池の向こう際
に下り、ほとりの木にはカワセミが止まっていた。
幸先がいいぞ。しかし湖畔に出ると風が強くなっ
た。湖上には何も見えない。橋を渡って西岸にで
た。北に向かい西岸の4分の3を過ぎたあたりか
ら、やっとジョウビタキ、モズ、カンムリカイツ
ブリ、ハジロカイツブリと色々と出始めた。風の
せいで水鳥たちは北に集まっていた。機場の北側
の土手の上からヨシガモ、ホオジロガモなど7
種。タグリも飛んだ。線路下の木にノスリが止ま
っているのを見ながら解散地へ。(倉林宗太郎)

1月9日(月、休)	春日部市 内牧公園
参加：49名	天気：晴

ゴイサギ カルガモ コガモ オオタカ バン
キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセクレ
イ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ
オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種)
風も治まり探鳥日和となったが、未だ小鳥の影が
少ない。こんなことは初めてだ。しかし、道端に
ホシゴイ(ゴイサギ幼鳥の異名)が佇み至近距離で
見られ、パンの池ではオオジュリン、公園内樹林
ではオオタカ若鳥、田んぼではセキレイ類4種を
確認した。ツグミ、シメ、ジョウビタキもわずか
ながら姿を見せ、まずまずであった。(石川敏男)

1月14日(土)	深谷市 仙元山公園
参加：20名	天気：晴

カワウ カルガモ キジバト カワセミ コゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグ
イス ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (23種) (番外：ドバ
ト) 滝宮神社ではたくさんのカワラヒワが出迎え
てくれた。唐沢川では目の前をカワセミが都合3
回飛んでくれたが、合流点にいるはずのコサギと
ダイサギは釣り人が入って見られなかった。今季
の仙元山は冬鳥が少なく、この日もなかなか姿を
見せてくれなかったが、おかげでかろうじて出て
くれたシメ、ジョウビタキ、ヤマガラ、コゲラな
どに珍鳥並みに盛り上がった。(新井 巖)



連絡帳

●冬の小鳥類が少ない！

支部ネット通信 2012 年 2 月定期 No. 113 号によれば、今冬小鳥類が少ないという声が多く、本部自然保護室で全国各地の情報を集めたところ、

ツグミ 旭川では例年と変わらない。東北、関東ではシーズン当初ほとんど見かけなかったが、1 月中旬以降小規模な群れが見かけられるようになった。その他の地方では極端に少ない。

ジョウビタキ 初認日は例年通りだが、数が少ない。もしくはその後見なくなった。シロハラ・ヒヨドリ・メジロ 近畿以西で少ない。

という状況が見えるとのこと。理由として、ツグミについては、北の地域や山に食べ物があり、南の地域や平地に来ていないことが考えられ、ヒヨドリ・メジロも冬の移動で食べ物の条件の良い所にとどまっている可能性がある、と分析しています。

ガンカモ類については、ほぼ例年通りのようです。

●平成 24 年度鳥獣保護員推薦

県環境部長からの平成 24 年度鳥獣保護員推薦依頼に対し、2 月 19 日(日)の役員会議を経て、小荷田行男・橋口長和 2 名の留任を推薦しました。

●会員の普及活動

1 月 14 日(土)、春日部市教育委員会・内牧地区公民館共催「バードウォッチング・内牧の冬鳥に会いに行こう」が内牧公園周辺で開催され、橋口長和・長野誠治・進士悦行・野村弘子・植平徹が指導。

1 月 27 日(金)、さいたま市北公民館主催「バードウォッチング講座」が、氷川神社・大宮公園などで開催され、松村禎夫・赤坂忠一が指導。

2 月 5 日(日)、小川げんきプラザ主催「バードウォッチングとバードケーキづくり」で、千島康幸と中村豊己が指導。

●会員数は

3 月 1 日現在 1,937 人。

活動と予定

●2 月の活動

2 月 11 日(土) 3 月号校正(大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山部直喜)。

2 月 19 日(日) 役員会(司会:山口芳邦、各部の報告・探鳥会規定変更・行事予定・鳥獣保護員推薦など)。

2 月 20 日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け 3 月号を発送(倉林宗太郎)。

●4 月の予定

4 月 7 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

4 月 14 日(土) 5 月号校正(午後 4 時から)。

4 月 21 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

4 月 22 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

2 月 21 日、某公園から FAX。「コミズクの撮影に連日連夜カメラマンが押し寄せ、マナーが悪く困っている。道路に縦列駐車するし、閉門時間になっても帰らないなど。野鳥の会で何とかできないか」。多いに恥じ入る。当会会員にそういう人たちはいないだろうと思う一方、私たちにできることは何かを考える。難しいが、少なくとも自分がそう言われることがないように、まず振り返らなければならないことは確か。(海)

しらこぼと 2012 年 4 月号(第 336 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabazuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社